

MOUSA¹

ムーサ

令和6年度

高等学校用教科書 音楽 I

27教芸 (令和6教 内容解説資料)

この資料は、一般社団法人教科書協会の定める「教科書発行者行動規範」に則って作成しています。



目次	MOUSAの特徴……………3	創作……………13
	改訂のポイント1……………4	鑑賞……………14
	改訂のポイント2……………6	資料……………15
	改訂のポイント3……………8	年間指導計画例……………16
	歌唱……………10	指導書について……………18
	器楽……………12	検討の観点別に見た特色……………19

「主体的・対話的で深い学び」を実現し、思考力、判断力、表現力等を育てます。

▼ 個々の創造性を育むとともに、グループ活動によって協働しながら主体的に取り組むことができる教材

ボディーパーカッションは楽器を用いないため、無理なく取り組むことができます。

強弱や音色の工夫について説明

Plymouth Rock
マレイ・ホーリブ 作曲
In a Rock style ♩ = 80~88

1. 目と耳に
手拍子
足踏み

2. 目と耳に
手拍子
足踏み

3. 目と耳に
手拍子
足踏み

4. 目と耳に
手拍子
足踏み

(P.30-31)

ボディーパーカッションを楽しもう

「Plymouth Rock」は手拍子と足踏みだけで演奏する曲である。パートの役割を考えながら、手拍子や足踏みを工夫して演奏しよう。

- 全員が1と目の両方のパートを演奏できるようにしたらグループに分かれ、どのように工夫したら楽しいアンサンブルになるかアイデアを出し合って練習しよう。
- グループ練習をするときには、1と2の中から部分的に取り出して合わせるなど、練習方法を工夫しよう。
- 試しながらグループで話し合っ、よりよい演奏を目指そう。
- 各グループの表現の工夫に注目しながら、互いのアンサンブルを聴き合おう。

演奏の工夫

- 強弱記号の書かれていない部分についても強弱の変化を考える。
- 強弱に合わせて手拍子の打ち方や足踏みの仕方を変える。
- 各パートのリズムの特徴を感じ取り、目立たせて演奏するリズムなど、逆に目立たせないように演奏するリズムを定め、抑揚を付ける。
- 手拍子や足踏み以外のボディーパーカッション(指鳴らしや膝打ちなど)も取り入れる。
- 「Plymouth Rock」に合うような曲の音源を持ち寄り、それに合わせて演奏する。

▼ グループ活動に効果的なアンサンブル教材が豊富

動画サイトで話題となり、2012年公開のミュージカル映画にも使われた『Cups』のパフォーマンスをもとにした教材を取り上げています。

Clap, Tap with CUPS!

身近にあるコップ(紙製もしくはプラスチック製)を使い、手拍子や机を打つ音と組み合わせ、リズムを演奏しよう。コップを机に置く際、飲み口側と底側のどちらを下にするかによって音は変わる。また、底側であっても、全体を机に付けるか、一部分を付けるかによって音が変わる。自分たちのイメージする音色を目指して、何度も試しながら音の出し方を工夫しよう。

STEP 1 動作を覚えよう 下の5つの動作を覚えよう。

- 手拍子(リン、パ)
- 片手で机を打つ(トント)
- コップを持ち上げる(スッ、ポツ)
- コップで机を打つ(カン、マン、カッ、パツ)
- 手でコップを打つ(ポツ、ポツ)

STEP 2 リズムを演奏しよう コップを伏せた状態にセットする。演奏する前にリズムを聴んで覚えておくとよい。

(P.32-33)

STEP 2 グループで演奏しよう

4~8人ぐらいのグループを作り、輪になって演奏しよう。その際、最後の「カン」のとき、右隣の人の前にコップを置くこと、コップを回しながら演奏することができる。また、「リン」のときは手拍子を打つ代わりに両隣の人手を打ち合わせるなど、いろいろなアイデアを出し合って自分たちなりのパフォーマンスを考えよう。

右隣の人の前にコップを置く

両隣の人手を打ち合わせる

オリジナルのリズムをつくらう

いくつかの短いリズムパターンをつくり、それらをつなぎ合わせてもよい。リズムパターンをつくる際は、音を出しながら組み合わせを考え、文字の大きさやなどで、音の長さや音色の違いが分かるように記譜の工夫をしよう。

ミッション：インポッシブルのテーマ

クロ・サンフラン 作曲/作曲者 作曲

♩ = 168くらい

シンバル
クラベス
トイアングル 軽く叩く

クラベス
トイアングル 軽く叩く

クラベス
トイアングル 軽く叩く

クラベス
トイアングル 軽く叩く

クラベス
トイアングル 軽く叩く

(P.42-43)

音色を工夫して楽しむ
キーボード・アンサンブルも掲載

▼ [共通事項]を手がかりに学習を進めることができる教材

「音楽を織りなすさまざまな要素」を参考に、音楽の要素が曲想とどのように関わっているのかを主体的に捉えることができます。



音楽を形づくっている要素について分かりやすく解説

音楽を織りなすさまざまな要素

音楽は、さまざまな要素が関わってできている。これらの要素の働きを理解し、表現や鑑賞の学習に生かそう。

音色 音程や音の高低にかかわらず特有の音として認識できるものなど
声：女声/男声
曲種に応じた声(オペラの声/日本の民謡の声)
楽器：いろいろな楽器の音色
奏法による音色の違い(バイオリンを弓で弾く音と指で弾く音、ピアノの音とハンマーでたたいた音)
身体による音色の違い

テクスチャ 和音や和声、音や旋律の重なり方など
モノフォニー：単旋律
ポリフォニー：複数の独立した旋律の組み合わせ(フーガト形)
ホモフォニー：主旋律と和声的な伴奏の組み合わせ(ロックやポピュラー音楽)
日本の伝統音楽の音や旋律の重なり方

リズム 拍や拍子、曲を特徴付けているリズムなど
拍：音楽の流れの中で等間隔で刻まれる時間の単位
拍子：拍のまとまりにみられる周期性
いろいろなリズム
3連符 スウィング
シンコーション(音のすべり)
シンコーション(音のすべり)
世界で活躍する音楽や日本の伝統音楽のリズム：
拍数4拍(拍の多い)リズム(アフリカン・リズム)
拍数2拍(拍の少ない)リズム(ワルツ・タンゴ)

速度 速度(テンポ)の設定、変化、緩急の対比など
一定の速度：メトローム記号(♩、♩♩)
速度用語(Moderato, Allegro など)
速度の変化：rit., accel.
日本の伝統音楽における速度の変化：序奏急*

旋律 音のつながり方やフレーズ、旋律を生み出す音階や調など
旋律の性格付けに影響を与えるもの：音階、調性、音程、音域
進行(連続する2音の高低の変化)の種類：
「階次進行」 「跳躍進行」

構成 反復、変化、対照、主題の扱い方など
主題の対比
ベートーヴェン：交響曲第9番(第4楽章)
「歓喜の主題」
「悲しみの主題」
ジャズの演奏の構成例
イントロ(独奏) → テーマ → ソロ → テーマの再演 → エンディング
※各プレイヤーが順番に独奏演奏をする。

その他の要素
作曲者の意図や表現の様式/地域や民族、時代による違い
演奏者による解釈の違い/他の要素との関わり など

音楽の要素とイメージをつなげよう

組曲《動物の謝肉祭》カミーユ・サン＝サーンス 作曲

それぞれの動物を表現するために、音楽の要素がどのように関わっているのか考えよう。

組曲《動物の謝肉祭》は、フランスの作曲家サン＝サーンス(1835~1921)によって、彼の友人が生産するマルティン・グラ(動物の最終日)の音楽を私的に楽しむために作られた。さまざまな動物が描かれたこの作品では、原曲の曲のフレーズをパロディー(他の作品を滑稽に作り替え、風刺をかけたもの)として用いているなど、ユニークな表現がみられる。サン＝サーンスの意向により、彼の生前は第13曲(白鳥)を除いて出版と演奏が禁じられていたが、1922年に初めて公の場で演奏されたのをきっかけに、広く知られるようになった。

組曲は14の短い曲で構成され、それぞれにタイトルが付けられている。

- 序奏と堂々たるライオンの行進
- 舞踏と鐘楼
- らば
- 亀
- 森の奥のけいこ
- 大きな鳥籠
- ピアノニスト
- 耳の長い紳士
- 鳥の真のけいこ
- 大きな鳥籠
- ピアノニスト
- 白鳥
- 終曲*

※第14曲(終曲)では、これまで登場した動物などがまたと現れる。

2台のピアノを中心に以下のような楽器で演奏される。曲ごとに編成は異なる。

- フルート(ピッコロ持ち替え)
- クラリネット
- サックス
- ホルン
- トランペット
- トロンボーン
- チェロ
- コントラバス
- ピアノ
- ピアノ
- ピアノ
- ピアノ

音楽の特徴を捉えよう

①組曲を聴き、130ページを参考に、「音楽を織りなすさまざまな要素」の観点からそれぞれの曲の特徴を捉え、言葉で表そう。

タイトル	楽曲の特徴					
	音色	リズム	速度	旋律	強弱	構成、その他
1 序奏と堂々たるライオンの行進	弦楽器とピアノ、硬い感じ。	規則的。重々しい感じだが躍動感もある。	ライオンが堂々と行進する姿が思い浮かぶような、落ち着いたテンポ。	スラーとスタッカートが特徴的で、少しおどけたような印象を受ける。	全体的に強いが、終盤にメロディーがいったん弱くなり、まただんだんと盛り上がりつつ終わる。	楽器の掛け合いが効果的。途中、ファンファーレやライオンのうなり声のような音に驚かされる。
2						

②気に入った曲を選び、その特徴や感じたことを文章にまとめよう。

③まとめた内容を発表し合い、意見を交換しよう。

(P.130-131)

音楽の特徴を言葉で表現

音楽の特徴を捉えよう

①組曲を聴き、130ページを参考に、「音楽を織りなすさまざまな要素」の観点からそれぞれの曲の特徴を捉え、言葉で表そう。

タイトル	楽曲の特徴					
	音色	リズム	速度	旋律	強弱	構成、その他
1 例 序奏と堂々たるライオンの行進	弦楽器とピアノ。硬い感じ。	規則的。重々しい感じだが躍動感もある。	ライオンが堂々と行進する姿が思い浮かぶような、落ち着いたテンポ。	スラーとスタッカートが特徴的で、少しおどけたような印象を受ける。	全体的に強いが、終盤にメロディーがいったん弱くなり、まただんだんと盛り上がりつつ終わる。	楽器の掛け合いが効果的。途中、ファンファーレやライオンのうなり声のような音に驚かされる。
2						

器楽

楽器や奏法の説明と、実際に演奏する曲の楽譜を見開きに配置し、常に確認しながら演奏できるように紙面構成を工夫しました。また、ボディ・パーカッション、チャイムなど、グループ活動で協働しながら学習を進めることのできる教材や、さまざまな楽器編成によるアンサンブル教材など、バラエティー豊かな曲を取りそろえました。

ウクレレ

コード演奏やストローク奏法を無理なく楽しめるウクレレの教材を新たに掲載しました。楽器や奏法についても詳細に説明しています。

掲載曲：《Michael, Row The Boat Ashore》(P.35) / 《真珠貝の歌》(P.35)

楽器や奏法の説明と演奏する曲の楽譜を見開きに配置

ウクレレ
ウクレレとは、ハワイ語で「真なる笛」を意味する。19世紀末、ポルトガルからの移民によってギターに似た小型の弦楽器がハワイに持ち込まれた。やがて移民たちがハワイの木材を使って楽器を作るようになり、「ウクレレ」と名付けられて定着した。

各部の名称
ボディ(胴)、ヘッド、ブリッジ(橋)、サウンドホール、フレット、ナット、ペグ(楽器)、アンプ、ヘッドギャー(高橋)、フロッグ(弦止)

姿勢と構え方
椅子に深く腰掛けて背筋を伸ばす。ボディを右側の内股と胸の間に挟むようにして持つ。右手の人差し指は、点の位置を指す。左手で弦を押さえるときは、指はフレットのすぐ近くを押さえる。

チューニング
チューナーを使って各開放弦の音を合わせる方法の他、まず第1弦の開放弦の音をピアノで合わせ、その音を基準にした残りの弦を順に合わせる方法などもある。いずれの場合も、ペグを引いて音高を調整する。なお、第4弦の音を1オクターブ低く調整する場合もある。

ダイヤグラム
ダイヤグラムは、ウクレレの弦とフレットを図式化し押さえる位置を分かりやすく示したもので、横の線が弦、縦の線がフレット、左端の黒い点がナットを示している。●は押さえる位置、その中の数字は左手の指を示している。実際にウクレレを構えたときと上下を逆にする必要があるが、図の上が第1弦、下が第4弦なので間違えないように注意しよう。

Michael, Row The Boat Ashore (こげよ マイケル)
使用するコード: C, F, G, C
使用するリズム: ストローク

真珠貝の歌
使用するコード: G, A7, Cm, D7, G7, C
使用するリズム: アップ・ストローク

実際の演奏方法を動画を確認

ギター

3つのコードで演奏できる曲を取り上げ、ストローク奏法を学習します。また、メロディーと伴奏(和音と低音)に分かれて楽しむことのできるアンサンブル曲も掲載しました。

掲載曲：《日曜日よりの使者》(P.38-39) / 《第三の男のテーマ》(P.40)

アンサンブル

キーボード・アンサンブル用に編曲した《ミッション：インポッシブルのテーマ》を新たに掲載しました。また、ボディ・パーカッションやチャイムのアンサンブルでは、演奏する際の注意点や工夫例などを示し、グループで楽しみながら表現を深められるようにしています。

リコーダー

各学校や生徒の実態を考慮し、ソプラノとアルトのどちらでも演奏できる曲や、アルトの二重奏もしくはソプラノとアルトの二重奏で演奏できる曲などを収録しました。

掲載曲：《天国と地獄》(P.62) / 《C-a-f-f-e-e》(P.62) / 《グリーンズリーヴス》(P.62) / 《ザナルカンドにて》(P.63)

和楽器

各学校の実態に応じてさまざまな和楽器を選択できるよう、篠笛、三線、三味線、箏の4種類を取り上げました。楽器や奏法の説明と演奏する曲の楽譜をそれぞれ見開きに配置しています。

創作

表現したいイメージを着実に作品にしていけることができるよう、具体的な例を挙げながら簡潔かつ丁寧に手順を示しました。また、歌唱や器楽の教材と関連付けることにより、取りかかりやすくなるだけでなく表現も深められるようにしています。

●ポピュラー音楽でよく用いられるコード進行をもとに、楽しみながらメロディーづくりに取り組みます。

創作1 「コード進行」をもとにメロディーをつくらう
ジャンルを問わず多くの曲の中で、順次下行するベース(低音)をもとにしたコード進行が用いられている。例えば、《負けないで》(C-P15)や《オーシャンゼリゼ》(C-P76)、《クリスマススイプ》(C-P115)などもこの進行がみられる。このコード進行をもとにメロディーをつくらう。

手順1 (クリスマススイプ)を見てみよう。
下の楽譜は《クリスマススイプ》冒頭のメロディーとベースを書き出したものである。(クリスマススイプ)
メロディーには、主にコードの構成音が用いられているが、流れをよくするために、構成音以外の音や休符が挿入されている。また、同じリズムやメロディーを反復させることで、曲に統一感を与えていることにも気付く。

手順2 メロディーをつくらう。
下の楽譜は、8小節でベースが順次下行するコード進行になっている。示されているコードの構成音(●を含む)を参考に8小節のメロディーをつくらう。その際、キーボードなどを用いて、音を確認しながらつくるとよい。

順次下行する
ベースを使用した
創作例

(P.116-117)

手順2 音型やリズムを反復、変化させて3小節目以降もつくり、メロディーを完成させる。

例1 4分音符を中心としたリズム
1~2小節目のメロディーを、音高を変えて2回反復させる
音型を少し変化させる

●《星に願いを》のメロディーを用いて、変奏と編曲に取り組みます。

《星に願いを》
C A7 Dm G7 Gmaj7 C リー・ハーライン 作曲

創作2では、キーボード・アンサンブルによる三重奏用の編曲手順を詳細に解説

【軽快でアップ・テンポな雰囲気に変化させる例】

例1 音を挿入し、音の動きを細かくする。
例2 休符を挿入する。
例3 付点音符やシンコペーションのリズムを用いる。

(P.46)

創作1では、変奏方法の例を
分かりやすく提示

手順1 3つのパート(メロディー、ハーモニー、ベース)にふさわしい音色(楽器)を選ぶ。
例 メロディー：トランペット、ハーモニー：ストリングス(弦楽器)、ベース：ファゴット など

手順2 ハーモニーパートをつくる。その際、コードの構成音を調べ、これをもとに構成音の配置を変えてみる。
例 ハーモニーパートの構成音を確認しながら、メロディーとのバランスを考えた場合。

手順3 ベースパートの音を各コードの構成音の中から1音選ぶ。ルート(根音)や、コードを持続している長(第3音)などにする。その際、キーボードで音を確認しながら、メロディーとのバランスを考えた場合。

手順4 メロディーパートがより引き立つように、ハーモニーとベースのパートに音や休符を挿入して、リズムを工夫する。その際、自分が表現したいイメージと音色が合っているかどうかを確認する。

作品例
メロディー、ハーモニー、ベースのパートをそれぞれ書き込んでいく。メロディーをより引き立たせるために休符を挿入する。音高を変えて2回反復させる。

2 上の手順を参考に、《星に願いを》の楽譜を編曲しよう。また、強弱を考えた時、スラーやアクセントなどの記号を加えたりして、表情豊かなアンサンブル作品にしよう。

3 作品ができたら発表し合い、意見を交換しよう。また、その意見を参考に修正を加え、よりよい作品にしよう。

コード・ネーム 154回 → キター/キーボード・コード表 156回 →

(P.47)

●オノマトペを用いてリズム・アンサンブルをつくり、五線譜以外の方法で記録するユニークなグループ活動に取り組みます。(P.86-87)

鑑賞

西洋音楽、日本の伝統音楽、世界の諸民族の音楽の全てにおいて「鑑賞のポイント」を示し、生徒が声や楽器の音色の特徴を感じ取ったり、音楽を形づくっている要素に着目したりすることができるようにしました。また、ジャズやロックをジャンルごとに掲載し、鑑賞と表現とを関連付けてより深く学習できるよう配慮しました。

西洋音楽

音楽を形づくっている要素の動きや表現方法の多様性を感じ取ることができる教材を精選しました。

組曲《動物の謝肉祭》(P.131)

交響曲第9番《合唱付き》から第4楽章(P.132-133)

バレエ音楽《火の鳥》組曲(1919年版)(P.134-135)

ピアノによるさまざまな表現効果を聴き取ろう(P.136-137)

情景を描く音楽を味わおう

バレエ音楽《火の鳥》組曲 (1919年版)

情景を描く音楽を味わおう

情景を描く音楽を味わおう

(P.134-135)

バレエ音楽《火の鳥》組曲は、各曲と物語のあらすじを結び付けることで、音楽の描く情景を容易に思い浮かべることができます。

日本の伝統音楽

それぞれの音楽の特徴を比較することができるよう、多目的の伝統音楽を取り上げました。日本音楽の流れを概観できる紙面構成になっているので、文化的・歴史的背景も学ぶことができます。

貴族社会と武家社会という対照的な時代背景の中で整えられた雅楽と能を鑑賞

日本の伝統音楽

雅楽(和楽)

能(楽)

(P.78-79)

総合芸術である舞楽と能の鑑賞のポイントについては、音源のみで鑑賞する場合も想定して示しています。

資料

音楽を学習するうえで必要となる基礎的・基本的な知識の習得や、教科書の学習活動をサポートするコーナーを設けることで、生徒の表現と鑑賞の能力を育て、興味をもって主体的に学習できるようにしました。多くの生徒にとって「音楽を学ぶ」機会が音楽Iで終わってしまう実情を踏まえ、卒業後も手元に残しておきたいと思える教科書になるような資料を豊富に取りそろえました。

基礎・基本の力

「ソルフェージュ」「楽典」などを取り上げ、音楽の基礎的・基本的な能力の定着を図れるようにしました。

18 solfège

ソルフェージュ

音符を読む練習

リズムを正確に読む練習

(P.18~20)

「楽譜を読めるようになった」と実感できるよう、豊富な課題を提示

歴史

「日本音楽の流れ」「西洋音楽の流れ」を簡潔にまとめて示し、鑑賞の際に歴史的背景も知ることができるようにしました。また、「郷土の民謡と芸能」「歌謡曲からJ-POPへの100年」においても、その歴史や背景を知って親しむことができるようにしました。

日本音楽の流れ(P.82~84)

西洋音楽の流れ(P.138~141)

郷土の民謡と芸能(P.96-97)

歌謡曲からJ-POPへの100年(P.112-113)

音楽の楽しみ

生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むことができるよう、さまざまな音楽に接する際の切り口を多様な観点から示しました。

Drums! 鼓動は時空を超えて(P.4-5)

アレンジャーは曲に魔法をかける(P.13)

舞台芸術(P.66-67)

演奏会や観劇に行こう(P.69)

世界の諸民族の音楽

「声による表現」と「楽器による表現」という観点から、合わせて20種類の音楽を取り上げました。人々の美意識の多様性に目を向けることができるようになっています。

全ての音楽に写真が掲載され、参考資料としても活用できます。

世界の諸民族の音楽

声による表現

楽器による表現

美しいエンメンタル

(P.98~101)

実際に歌うことで表現の特徴を感じ取るための教材

その他の資料

表現と鑑賞とを関連付けたページを含め、これまでに紹介した資料の他にも、教科書の学習活動をサポートするだけでなく卒業後も活用できる資料を豊富に取りそろえました。

ルールを守って音楽を楽しもう！(P.31)

オーケストラを知ろう(P.148-149)

コード・ネーム(P.154-155)

ギター／キーボード・コード表(P.156-157)

作曲家の年表と主な作品(P.158-159)

コードの押さえ方を動画で確認

156 ギター／キーボード・コード表

ダイアグラム

● 押さえる指 1-薬指 2-中指 3-薬指 4-小指

○ セール 2 薬指上の親指を手の人差し指などで押さえる

1-人差し指 2-中指 3-薬指 4-小指

ダイアグラム下の数字・フレット番号

	C	C#D	D	D#E	E	F
メジャー						
セックス						
M7						
m7						
dim7						
sus4						
オープンコード						

(P.156-157)

年間指導計画例 (学校やクラスの実態に合った曲を主な教材の中から選択するとよい。)

月	配当時間	題材名	題材のねらい	学習目標	主な教材	主な学習活動	学習指導要領の内容															
							A表現						B鑑賞		(共通事項)				内容の取扱い			
							(1)歌唱			(2)器楽			(3)創作		(1)鑑賞		音楽を形づくっている要素					
							ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	音色		リズム	速度	旋律
4	5	曲にふさわしい発声で表情豊かに歌おう	曲にふさわしい発声などの技能を身に付けるとともに、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解し、表現を工夫して表情豊かに歌う	曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する	校歌/Ave Maria 「ヴォイス・トレーニング」/小さな空 'O sole mio	・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付ける ・歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きなどを試行錯誤しながら表現を工夫する	●●●●●●●●															(2) (4)
6	7	ポディー・パーカッションや“CUPS”に挑戦しよう	ポディー・パーカッションや身近にあるコップなどを用いたリズム表現を通して音色や奏法、表現を工夫し、他者と協働しながら演奏する喜びを味わう	曲想と音色や奏法との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、他者と協働しながら自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫する	Plymouth Rock Clap, Tap with CUPS! ソルフェージュ⑩～⑫	・リズムを正確に捉えるとともに、その重なり合いやつながりを意識して演奏する ・曲想に合った音色や奏法、パフォーマンスなどの技能を身に付け、表現を工夫する ・共通のイメージをもって、曲の特徴を生かした表現ができるよう試行錯誤したり意見を交換したりしながら演奏する		●●●●●●●●													(2) (4) (5) (8)	
4	4	表現を工夫してリコーダーを演奏しよう	リコーダーの奏法を身に付けるとともに、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、表現を工夫して演奏する	曲想とリコーダーの音色や奏法との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫する	見上げてごらん夜の星を/天国と地獄 C-a-f-f-e-e/グリーンズリーブス ザナルカンドにて	・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身に付ける ・演奏したり互いに聴き合ったりしながら、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きなどを試行錯誤しながら表現を工夫する		●●●●●●●●													(2) (4)	
4	4	J-POPや歌謡曲の特徴を理解して歌おう	J-POPや歌謡曲を取り上げ、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解し、イメージをもって歌うとともに、自分や社会と音楽との関わりを考える	曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考え、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する	Lemon/翼をください/負けないで 若者のすべて/東京ブギウギ/クリスマス・イブ/「歌謡曲からJ-POPへの100年」 「ルールを守って音楽を楽しもう!」	・曲について調べたり意見を交換したりして曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わりを理解するとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考える ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きなどを試行錯誤しながら表現を工夫する	●●●●●●●●														(2) (4) (8) (11)	
3	3	「コード進行」をもとにメロディーをつくる	多くの曲に用いられているコード進行をもとに、音のつなげ方やフレーズのまとまり、重なりによる響きを理解し、さまざまな手法を活用しながらイメージをもって創作する	音のつなげ方やフレーズのまとまり、重なりによる響きを理解するとともに、反復、変化、対照などの手法を活用してメロディーをつくる技能を身に付け、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫する	「コード進行」をもとにメロディーをつくらう」 「コード・ネーム」	・コードの構成音をもとに音の組み合わせ方やつなげ方を試しながら、自分の表したいイメージに合うメロディーをつくる ・反復、変化、対照などの手法を用いてメロディーをつくったり、つくったメロディーにもう一つのメロディーを重ねたりする技能を身に付ける			●●●●●●												(2) (3) (4) (7)	
5	5	音楽を形づくっている要素に注目して、曲のよさや美しさを探ろう	声やさまざまな楽器が生み出す響きやその特徴が、どのような要素やそれらの働きによってもたらされているのかを探るとともに、音楽のよさや美しさを味わう	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価と根拠について考え、音楽のよさを自ら味わって聴く	「音楽を織りなすさまざまな要素」 組曲《動物の謝肉祭》/交響曲第9番《合唱付き》から第4楽章//バレエ音楽《火の鳥》組曲 「西洋音楽の流れ」/「オーケストラを知ろう」	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きに注目しながら鑑賞する ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて意見を交換し理解を深める ・曲や演奏に対する評価とその根拠を述べ合う															(2) (4) (8)	
2	2	能や謡に親しもう	実際に謡を体験して能の音楽の特徴を理解するとともに、能の魅力味わう	能の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わり、言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する	歌唱：能《高砂》から 鑑賞：能《道成寺》 「舞台芸術」	・能を鑑賞したり能について調べたりしながら、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解する ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して謡い、表現に必要な技能を身に付ける	●●●●●●●●														(2) (4) (6) (9)	
9	10	表現を工夫してギターやウクレレを演奏しよう	ギターやウクレレの奏法を身に付けるとともに、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、表現を工夫して演奏する	曲想とギターやウクレレの音色や奏法との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫する	ギター：日曜日よりの使者/第三の男のテーマ ウクレレ：Michael, Row The Boat Ashore/真珠貝の歌	・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身に付ける ・演奏したり互いに聴き合ったりしながら、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きなどを試行錯誤しながら表現を工夫する			●●●●●●●●												(2) (4)	
11	12	日本や諸外国の歌曲に親しみ、表現を工夫して独唱しよう	さまざまな言語による歌曲に親しみ、それぞれの特徴を理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、表現を工夫して独唱する	曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する	むこうむこう/この道/「日本語と旋律」 「詩の心を大切に歌おう」/「日本語の歌詞の歌い方」/Caro mio ben/「Caro mio ben 大解剖!」/Heidenröslein(シュベールト/ヴェルナー)/Ich liebe dich オー・シャンゼリゼ	・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付ける ・歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きなどを試行錯誤しながら表現を工夫する	●●●●●●●●														(2) (4)	
2	2	発音や発声を工夫して声によるアンサンブルをつくらう	オノマトベのもつリズム感やアクセントなどのおもしろさを生かして、他者と協働しながら表現を工夫してリズム・アンサンブルをつくらう	オノマトベを音楽材として用い、それを連ねたり重ねたりしたときの響きの特徴を理解するとともに、反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能を身に付け、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫する	創作：「オノマトベでリズム・アンサンブルをつくらう」 歌唱：虫のこえ	・オノマトベのもつリズム感やアクセントなどのおもしろさを生かして、それを連ねたり重ねたりしながら、パートの組み合わせなどを工夫してリズム・アンサンブルをつくる ・反復、変化、対照などの手法を用いてリズム・アンサンブルをつくる技能を身に付ける ・歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きなどを試行錯誤しながら表現を工夫する	●●●●●●●●		●●●●												(2) (3) (4) (7) (10)	
8	8	表現を工夫して合唱やヴォイス・アンサンブルをしよう	各パートの役割を理解するとともに、全体の響きをイメージしながら表現を工夫して合唱やヴォイス・アンサンブルをする喜びを味わう	合唱やヴォイス・アンサンブルによる表現の特徴を理解するとともに、それを生かして歌ったり、他者との調和を意識して歌ったりする技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する	花/夏の思い出/「指揮にチャレンジ」 故郷/懐かしきケンタッキーの我が家 サザエさん/言わない/ぼくは ぼくおんがく	・一人一人が主体性を発揮しながら、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付ける ・各パートや指揮者の役割を理解するとともに、全体の響きやハーモニーをイメージしながら演奏する ・共通のイメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きなどを試行錯誤しながら表現を工夫する	●●●●●●●●														(2) (4)	
4	4	和楽器に親しみ、演奏に挑戦しよう	和楽器に親しみ、その音色や表現の特徴を味わうとともに、奏法を身に付け、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、表現を工夫して演奏する	曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫する	器楽：篠笛/三線/三味線/箏から選曲 鑑賞：華曲《みだれ(乱輪舌)》	・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身に付ける ・演奏したり鑑賞したりしながら、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きなどを試行錯誤しながら表現を工夫する			●●●●●●●●												(2) (4) (6) (9)	
2	2	世界の諸民族の音楽を知ろう	世界の諸民族の音楽を、声や楽器に着目して鑑賞したり歌ったりしながら、その音色や表現の特徴を理解する	世界の諸民族の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさを自ら味わって聴いたり、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫したりする	鑑賞：「世界の諸民族の音楽」 歌唱：京畿道アリアン 美しいエンメンタール	・世界の諸民族の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解しながら鑑賞する ・それぞれの音楽表現の共通性や固有性について気付いたことや考えたことを述べ合い、理解を深める ・アリアンとヨーデルの声の音色、リズム、旋律などの特徴を理解し、曲にふさわしい発声で歌い、表現に必要な技能を身に付ける	●●●●●●●●														(2) (4) (8) (9)	
1	2	3	ミュージカル・ナンバーを歌おう	物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情などを理解し、曲にふさわしい表現を工夫して歌う	曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する	歌唱：Memory/美女と野獣 鑑賞：ミュージカル《キャッツ》 ミュージカル映画『美女と野獣』 「舞台芸術」	・ミュージカルを鑑賞し、物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情などを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付ける ・歌ったり互いに聴き合ったり、意見を交換したりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きなどを試行錯誤しながら表現を工夫する	●●●●●●●●													(2) (4) (8)	
2	2	作曲家の生涯と作品をたどろう	J.S.バッハやW.A.モーツァルトの生涯をたどりながら、それぞれの作品の特徴を理解し、魅力を味わう	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解するとともに、曲や演奏に対する評価と根拠について考え、音楽のよさを自ら味わって聴く	「クロース・アップ・マエストロ」 J.S.バッハ/W.A.モーツァルト	・作品を鑑賞したり、作曲家について調べたり、意見を交換したりしながら、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解する ・曲や演奏に対する評価とその根拠を述べ合う															(2) (4) (8)	
4	4	オペラに親しみ、アリアに挑戦しよう	物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情などを理解し、曲にふさわしい表現を工夫して歌う	音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する	歌唱：ハバネラ/闘牛士の歌 鑑賞：オペラ《カルメン》 「舞台芸術」	・オペラを鑑賞し、物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情などを理解するとともに、舞台芸術としてのオペラの特徴を知る ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付ける ・歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きなどを試行錯誤しながら表現を工夫する	●●●●●●●●														(2) (4) (8)	
4	4	さまざまな器楽アンサンブルを楽しもう	各パートの役割を理解するとともに、全体の響きをイメージしながら表現を工夫して器楽アンサンブルをする喜びを味わう	器楽アンサンブルによる表現の特徴を理解するとともに、それを生かして演奏したり、他者との調和を意識して演奏したりする技能を身に付け、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫する	ミッション：インポッシブルのテーマ タイムマシンにおねがい/星に願いを	・一人一人が主体性を発揮しながら、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付ける ・各パートの役割を理解するとともに、全体の響きやハーモニーをイメージしながら演奏する ・共通のイメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きなどを試行錯誤しながら表現を工夫する			●●●●●●●●												(2) (4)	

別売 鑑賞参考教材ソフトについて

教科書に掲載されている「世界の諸民族の音楽」の授業展開を強力にサポートする鑑賞参考教材ソフトが、Blu-rayで登場！
迫力ある演奏のみならず、各国の風景や美しい民族衣装などの文化にも触れることができます。DVDをはるかに超える高解像度と、最新技術のマスタリングによる臨場感あふれるサウンドで楽しめます。



世界の民族音楽

- Blu-ray1枚 / 収録時間 202分 ● 価格 19,800円(本体 18,000円+税 10%)
- 全ての映像について、各分野の研究者によるライナーノーツ付き

この他、音楽鑑賞DVDでは「日本の伝統芸能 編」と「民族編」を販売しています。どちらも鑑賞や音楽史の授業に最適です。



日本の伝統芸能 編

- DVD1枚 / 収録時間 126分
- 価格 19,800円
(本体 18,000円+税 10%)
- 雅楽、琵琶楽、能楽、文楽、歌舞伎の成り立ちと魅力を紹介
- 鑑賞演目は副音声解説付き



民族編

- DVD1枚 / 収録時間 146分
- 価格 19,800円
(本体 18,000円+税 10%)
- 38カ国、全59曲を収録
- 民族音楽研究家、江波戸昭先生の解説付き

第1表

高等学校用教科書需要票

見 本

発行者	番号	27	略称	教芸	需要数	生徒用	150	冊
	記号	音I	番号	703		教員用	2	冊
教科書	書名	MOUSA 1						
	計	152 冊						

所在地
学校名
電 話

(全日制・定時制・通信制)

KG 教育芸術社

- 本 社 〒171-0051 東京都豊島区長崎1-12-14 TEL.03-3957-1175(代)
- 中部支社 〒460-0024 名古屋市中区正木4-8-7 れんが橋ビル8F TEL.052-678-3151(代)
- 関西支社 〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮中央1-14-17-601 TEL.06-6943-7245(代)
- 西部支社 〒751-0808 下関市一の宮本町2-7-14 TEL.083-256-4747(代)

ホームページ <https://www.kyogei.co.jp/>